

要約

シジミ資源の維持増大に向けて、小川原湖漁業協同組合と共同で人工的にシジミ種苗を生産する技術を開発しました。

研究成果の概要

1. 背景・目的

小川原湖では塩分濃度が低く、シジミの産卵・発生が不安定であることから、種苗生産・量産技術を開発して種苗を放流することにより、シジミ資源の維持増大を目指します。

2. 内容

- 人工採卵に適した親貝は、7月頃に殻長19mm以上の個体が適していること。
- 放卵、放精の最適条件は、水温が23℃以上、塩分8psu（海水の1/4程度の濃度）前後であることがわかりました。
- 殻長0.14mm～0.18mmの人工種苗を7月中旬から9月下旬に生産し、放流することが可能となりました。

3. 活用等

- 作成したヤマトシジミ種苗生産マニュアルを利用し、小川原湖漁業協同組合の漁業者自らが種苗の生産、放流を行っています。
- 人工種苗の放流により、小川原湖のシジミ資源の維持増大が図られると期待されています。



写真1 漁業者による親貝の収容



写真2 シジミ人工種苗の湖への放流

関連情報

- 本マニュアルは小川原湖での知見をもとに作成しているため、他の水域で種苗生産を行う場合には、それぞれの地域の環境、シジミの特性に応じて調整が必要になります。
- マニュアル入手先 <http://www.aomori-itc.or.jp/index.php?id=3358>

内水面研究所 調査研究部

Tel. 0176-23-2405

E-mail sui_naisui@aomori-itc.or.jp

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center
地方独立行政法人 青森県産業技術センター

